「やまがた“地域の農地を活かし、担い手を応援する”活動」
～れいわスタートダッシュ～　実施要領

令和元年 7 月 22 日

【趣旨】

平成 30 年 1 月、県内の全農業委員会が改正農業委員会法に基づく新体制への移行を完了した。今後は農業委員会組織の使命である「農地利用の最適化」に全力で取り組み、成果を確保することが組織の内外から求められている。

一方、令和元年 5 月には「農地中間管理事業の推進に関する法律等の一部を改正する法律」が成立し、「人・農地プランの実質化」が図られることとなった。農業委員会に関しては、農地所有者等の意向把握や集落での話し合いといった「農地利用の最適化」の取り組みが明確化・重点化された。

以上の情勢を踏まえ、県内 35 市町村農業委員会と山形県農業会議は、全国農業会議所が中心となって取り組む「地域の農地を活かし、担い手を応援する全国運動」と連動しながら、各市町村の担当部局が中心となって行う「人・農地プランの実質化」に一体となって取り組むため、「やまがた“地域の農地を活かし、担い手を応援する”活動」～れいわスタートダッシュ～を実施する。

【目的】

地域農業の持続発展のため、農地の集積・集約を推進する。

【目標】

・県内全地区で話し合い活動を実施する。（実施率 100%）
・農地の出し手と担い手をつなぎ、農地の集積・集約を図る。（集積率 90%）

【実施期間】

令和元年度から令和 2 年度までの 2 年間

【実施体制】

・農業委員会：人・農地プランを担当する市町村部局を中心に JA や土地改良区等の関係機関・団体とも連携できるよう、農業委員会としても協力して体制整備に取り組む。
・農業会議　：山形県農地集積・集約化推進会議（山形県、やまがた農業支援センター、山形県農業協同組合中央会、山形県土地改良事業団体連合会、山形県農業会議）に構成員として参画し、情報を共有する。また、山形県農業法人協会、山形県認定農業者協議会とも連携を図る。

【スローガン】

「れ」＝連携・連動　・・各関係機関が連携協力し、連動して取り組む。
「い」＝意向把握　・・農地の耕作者と所有者へのアンケートを徹底し、得られた情報を有効活用する。
「わ」＝輪・話　・・当事者や関係者が一つの輪となり、十分な話し合いによって合意形成を目指す。